

◆巻頭言

「2040 年問題」とこれからの作業療法・・・・・・・・・・・・・・・・・・白濱 勲二 605

◆原著論文

急性期脳血管疾患障害者の作業実践における質的研究

—作業療法士の語りからみる作業の用いられ方の意義解明—・・・・・・・・丸岡 ちひろ・他 607

過去5 年間の作業療法学研究の動向

—BERTopic による分析—・・・・・・・・・・・・・・・・・・鈴木 哲理・他 614

急性増悪した慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者は呼吸の状態に配慮した作業遂行の習得に関して
どのような経験をしているか

—質的研究—・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・今岡 泰憲・他 622

後天性脳損傷後の自動車運転中断の意思決定要因の違いが作業参加に及ぼす影響

—アンケートによる予備的調査研究—・・・・・・・・・・・・・・・・・・那須 識徳・他 630

訪問リハビリテーション利用者の同居家族の介護負担感に関連する要因の検討

～多施設調査における利用者用者本人の主疾患別の比較～・・・・・・・・川田 智尋・他 638

脳梗塞患者における回復期病院退院時FIM の認知および運動項目を急性期入院時から予測する

—予後予測に基づいた生活行為目標を設定するために—・・・・・・・・松本 幸樹・他 645

5 歳児の人物画発達の遅れに関連する因子・・・・・・・・・・・・・・・・小枝 周平・他 653

◆実践報告

長母指伸筋腱再建術後に新型コロナウイルス感染症に罹患し遠隔リハビリテーション

および看護師とのチームアプローチを実施した一症例・・・・・・・・久原 義浩・他 662

橈骨遠位端骨折患者へのADOC-DRF を使用した作業を基盤とした実践の有効性

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・大草 直樹・他 669

Goal Attainment Scaling を用いた目標設定の具体的手段の検討

—作業と機能に着目し目標の段階付けを行った事例—・・・・・・・・森口 咲紀・他 679

ギランバレー症候群患者の手指屈曲拘縮に対する上肢装具療法の効果

—手指機能と日常生活動作の改善に関する一症例報告—・・・・・・・・殿内 優斗・他 686

急性期脳卒中者の結髪動作と料理の再獲得を目指して生活行為向上マネジメントと

修正CI 療法を併用した作業療法の実践・・・・・・・・・・・・・・・・岩崎 竜弥・他 694

希死念慮から自傷行為に及ぶ女子高校生に対する復学支援

—児童思春期精神科病棟における作業療法—・・・・・・・・・・南 庄一郎 701

脳損傷者に対するガイドブックを用いた運転再開手続き遵守支援・・・・・・・・吉原 理美・他 708

高等学校の通級指導における学校作業療法

—自閉スペクトラム症児に対する自分研究の実践—・・・・・・・・倉澤 茂樹・他 713

編集後記

▶最近の私の楽しみは、歴史的建造物に関するガイドさんの話を聞くことである。今夏は石見銀山に行ってきた。ガイドさんのお話から、銀の採掘方法、納税の厳格さ、そこに暮らした人々の生活など、ただ来て、見るだけでは分からなかったさまざまな背景を知ることができた。今見えているものに当時の息吹を感じた貴重な経験だった。我々の臨床においても、背景を調べ、それを踏まえて試行錯誤することで、見えているものがより深く、広く感じられるようになることが多い。これが研究の第一歩である。本号にも、臨床上の気づきに対して、丁寧に背景を検討し、研究疑問を解決しようとしている興味深い論文が並んでいる。ぜひご一読いただき、その息吹を感じていただければと思う。（S・T）

▶最近、私のまわり、例えば職場、学会は「学校作業療法」の話題で持ちきりである。本号でも高等学校における学校作業療法の論文が掲載されている。新聞記事や、学校作業療法に携わる同僚の話によると、学校作業療法は人材面に課題があるとのこと。学部学生との面談において、多くの学生は学校作業療法に強い興味を示す一方で、いざ就職活動の時期になると聞かれる「はじめは病院で経験を積みたい」というお決まりのフレーズは、今も昔も変わらない。学校作業療法を含め、作業療法の領域はどんどん広がっている。学生には、本誌に掲載される作業療法の最前線の研究や実践報告に刺激を受け、新しい領域にチャレンジしてもらいたい。（H・K）